



6月16日の2公演を終えて、城さん

輝いています

伴奏ピアニスト・コレペティートル

ひと

城 奈央子 さん

子どもたちに上質なクラシックを

6月16日に文化ホールくするで行われた「こどもに聴かせたいクラシックコンサートVol.3」。会場には多くの乳幼児親子が訪れ、マツトの上などで思い思いにくつろぎながら、打楽器とピアノのデュオによる本格的なクラシック演奏に耳を傾けていました。このコンサートを主催し、美しいピアノの音色で会場を包み込んでいたのは、伴奏ピアニスト・コレペティートルの城奈央子さん(36歳・中央1丁目)です。

三重県出身の城さんは、クラシック好きな母親の下で4歳からピアノを始め、14歳の頃に訪れた本島阿佐子(歌)・山田佐和子(ピアノ)各氏によるデュオリサイタルにて、シューマンの曲の演奏に衝撃を受け、伴奏に興味を持つようになり、大阪教育大学大学院の音楽表現コースを修了後、「伴奏を究めたい」と不転の決意。生活の拠点を欧州へ移し、仏リヨン国立高等音楽院と独ミュンヘン国立音楽・演劇大学で伴奏やコレペティートル(歌などの個人練習で伴奏や助言を行う指導者)の世界水準の技能や知識を学びました。言語の壁にぶつかり苦戦するも、猛勉強の末「ドイツ人よりも美しくドイツ語を発音する」と評されるまでに。国際コンクールではファイナリストまで上り詰め、リヨン国立歌劇場の公式伴奏者を務めるなど、輝かしい実績を残しました。

約6年ぶりに帰国してからは、国内で精力的に活動する城さん。結婚して娘が生まれたことで「0歳から芸術に触れさせたい」という思いが芽生え、昨年5月に「こどもに聴かせたいクラシックコンサート」を初開催しました。「子どもだけでなく大人も楽しめるプログラムを心がけています」と語る城さん。次回は、11月10日(土)に市民会館コンクレホールで開催予定です。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.26 —



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
~明治22年(1889)

3歳で初めて蛙を写生し、墓石も蝦蟇形の石を遺すほど蛙好きだった暁斎は、幕末の混乱から明治文明開化まで、数多くの世相を蛙に託して描きました。本図は、元治元年(1864年)の長州征伐を蛙合戦に託し

た錦絵です。初版では、右陣営の大砲や幔幕に幕府方・紀州徳川家の六ツ葵紋を、左陣営の幔幕に毛利家の沢瀉紋を描きました。この後版に六ツ葵紋は見られませんが、長州征伐を描いたことが分かってとがめられたからでしょう。蛙たちの擬人化がおもしろい上に、錦絵の報道画の面も伝える貴重な作品です。



暁斎筆「風流蛙大合戦之図」(六ツ葵紋無し)大判錦絵三枚続 元治元年(1864)

河鍋暁斎記念美術館 7月1日(日)~8月25日(土)
「暁斎一門が描く イキイキ生き物たち」展
同時開催「第32回かえる」展

開館 = 午前10時~午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日~末日
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 中学生~大学生500円
小学生以下300円 (20人以上の団体は要予約)
詳細 = 同館 ☎441-9780



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

